

第9回都市計画マスタープラン策定検討部会 会議録

1. 会議の年月日、開閉時刻及び場所

- (1) 会議の年月日 令和3年1月13日(水)
- (2) 開閉時刻 午前10時から正午
- (3) 場所 生駒市役所 4階大会議室

2. 委員の出欠

(1) 出席者

- (委員) 嘉名部会長・松中副部会長・東委員・佐藤委員・田中委員・森岡委員・黒部委員・松尾委員
- (事務局) 北田都市整備部長・有山都市計画課長・内蔵都市計画課課長補佐
浜田都市計画課主幹・三木都市計画課技師
井上都市計画課課長・金丸住宅政策室住宅政策係長
株式会社地域計画建築研究所 清水・橋本・稲垣

(2) 欠席者

荒川委員

3. 会議の公開・非公開の別 公開

4. 傍聴者数 3名

5. 配布資料

- (1) 会議次第
- (2) 資料1 生駒市都市計画マスタープラン(原案)
- (3) 資料2 次期都市計画マスタープランの構成(案)
- (4) 資料3 次期都市計画マスタープラン体系図
- (5) 参考資料1 次期都市計画マスタープランの構成(案)第8回策定検討部会会議資料
- (6) 参考資料2 本計画で対象とする空間領域の考え方
- (7) 参考資料3 学研高山地区第2工区の土地利用方針(案)等について
(第6回学研高山地区第2工区まちづくり検討会 会議資料)

6. 次第

- (1) 開会
- (2) 次期都市計画マスタープラン（原案）について
- (3) 閉会

7. 調査検討内容等

(1) 次第 2 次期都市計画マスタープラン（原案）について

【5章】計画の推進と見直しの方針

- ・事務局から説明
- ・意見等

委員 全体的な構成はまとまっているという印象を持った。P.5-3「地域まちづくりとは」で、地域まちづくりの主体が地域住民、自治会、事業者、NPO 団体と、地域に関係する人々であるということは確かだが、今まで全く地域活動をしていなかった個人についてはどうか。

今までの経験から考えると、都市計画は市民が関わるのにハードルが非常に高い部分がある。例えば支援を受けるには人数が5人以上、20人以上が揃い、組織として確立されている組織でないといけないという場合もある。生駒市の場合はできるだけいろんな方が地域まちづくりに関わられるように、あまり地域活動をやっていない個人のサポートが必要だと思う。そのような方が地域には多くいると思うので、自治会の方とも一緒になって、連携ができるような動きになればよいと考える。

地域まちづくりの主体に、個人という表現を入れるのがよいのではないか。

部会長 地域社会や自治会、事業者、NPO 団体、要するに地域の集団を中心に記述されているので、個人も含めて表現したほうがよい。

委員 今生駒市では市民自治協議会を作ろうとしているが、なかなか進んでいない。問題は、自治会や事業者、NPO 団体、あるいは個人を、どのようにまとめ、発言の機会等を保証するかである。

私たち自治会としても、自治会が全てやるわけにはいかないので、いろんな人が集まることが可能な市民自治協議会のなかで、個人も含めた活動を進めようとしている。市民自治協議会の取り組みの位置付けも考えてもらいたい。

部会長 地域まちづくりの担い手を巡る状況について少し頭出しで記載したほうがよい。今までは地域コミュニティがまちづくりの担い手として位置

付けられていたが、環境が大きく変化して、担い手は多様化しつつある。いわゆる地縁型のコミュニティだけでなく、テーマ型のコミュニティもあり、個を中心にした取り組みもある。それだけ担い手が多様化してくると、この多様化する担い手を横つなぎするような仕組みも必要となり、それが市民自治協議会である。このように枠組みが置き換わるなかで、地域まちづくりと連携しながら都市計画を進めていくことを記載するとよいのではないか。

いずれにしても、個人という言葉はプレーヤーや担い手という位置付けで取り入れていただくこと、市民自治協議会という言葉自体を盛り込むかどうかは、生駒市で考えていただきたい。

P. 5-8 以降の戦略ストーリーに基づく評価指標は、暮らし方、住まい方の視点で、4つの戦略ストーリーに基づいた、インプット、アウトプット、アウトカムの指標であるが、もう少し説明や解説がないと、何を指しているかがよく分からない。解説が付いてくると考えてよいか。

事務局 評価指標の部分はロジックモデルそのものだけしか記載していないので、導入文の記述が必要である。

目標の実現に向け単に都市づくりの方針に取り組んでいくだけでなく、今回設定した戦略でしっかり行政と、市民が協働して取り組んでいくという熱意が伝わるよう、丁寧な導入文を記載し、分かりやすくしたいと思う。

部会長 資料2の第2章「都市づくりの目標と戦略」に、未来の生駒をつくる戦略ストーリーという部分があり、これが都市拠点・地域拠点、計画的市街地、田園集落地、産業・学術研究拠点の4つの戦略である。それぞれ、市民目線に立った暮らし方という着眼点でまちづくりのことを考えるというのが今回のマスタープランの大きな方針であり、戦略と呼んでいるものである。都市計画道路の拡幅などいわゆるマスタープランのよくある目標設定だけでは不十分であると考え、今回は戦略に沿った評価や見直しをすることを新たに加えて書いていただくということでよいか。

事務局 そうである。

委員 P. 5-8「住まい方」で、「市内在住者に対する住み替え支援」に対して「まちなかへの高齢者移住者数」という形でアウトプットが書かれている。この「まちなか」という定義は何か。例えば生駒の駅前にだけ集める考えなのか、あるいは、北、中、南という形でブロック分けをする考え方なのか。「まちなか」の考え方を教えていただきたい。

事務局 ここで記載している「まちなか」は、生駒駅や東生駒駅などの都市拠点、北部、南部では学研北生駒駅周辺と南生駒駅周辺といった地域拠点をイメージしている。その地域で住み続けたいという方を「まちなか」に移住していただくという考えではない。

委 員 生駒には相当数駅があるが、利便性の高い所を「まちなか」として考えているのかどうかを教えてください。そうでないと、「まちなか」の定義が曖昧になってくると思う。

部会長 都市拠点や生活拠点ではなく「まちなか」という言葉を使うのか検討してほしい。あるいは「まちなか」という言葉の定義をはっきりさせたほうがよい。

 地方都市だとひとくくりで「まちなか」という表現は可能であるが、生駒市は駅が多いから難しい。やはり「駅前」や「生活拠点周辺などの」という形で、範囲を明確にするほうがよい。例えば他都市のマスタープランでは、半径何百メートル以内とか駅から徒歩圏というところで決めている所もあり、様々である。少し緩やかで良いので駅周辺の利便性の高いエリアを指すというようなことを示していただいたほうがよい。

委 員 P. 5-8 戦略ストーリーに基づく評価指標について、生駒市の全市を見据えた評価指標になるのか。それぞれの地域の戦略ストーリーに基づく評価指標なのか。

事務局 今回の評価指標は、それぞれの地域での評価指標であるという考え方である。

委 員 都市拠点で「まちなかへの高齢者移住者数」を計測するとして、例えば、生駒駅前にだけ高齢者のマンションが建つというのは困る。大都市周辺の生駒でも働けるようなまちづくりをしようとしているのに、駅前に高齢者ばかりが来るのはおかしい。都市拠点だけで集計するのではなく、それぞれの長く住んだ所の近くの利便性の良い所に高齢者は移ってもらうという考え方があっても良いと思う。

部会長 都市拠点・地域拠点の戦略ストーリーは、駅周辺のストーリーであり、特に「まちなか」と言う必要はないのではないかと。

 この戦略ストーリーにおいて、「まちなか」の評価では、高齢者移住者数を増やしますということだが、例えばそれ以外の計画的市街地などでも記載すればよいのではないかと。

 ただ、戦略ストーリーがどのエリアに該当するかということがわかりにくい。

委員 地域、エリアの整理が必要だと思う。4つの戦略ストーリーに該当する空間的な考え方が、参考資料2にも出てこない。よく似た紛らわしい名前が出てくる。

4つのエリアごとに評価をするということになれば、4つのエリアが一番の基本となる空間区分になると思う。それ以外は補助的なものと位置付けるべきで、評価をこの4つでするのであれば、それぞれの関係性、どのような考え方でこの4つの空間区分になったのかを記載したほうがよいと思う。

事務局 戦略ストーリーに基づく評価だけでなく、第3章の都市づくりの方針に基づく評価も行う。P.5-7(1)進行管理に「主に、戦略ストーリーごとに作成した評価指標をもとに行う」とあり、都市計画基礎調査や市民満足度調査で全体的な検証もするが、それに加え戦略ストーリーに基づいて評価を行うことを考えている。

戦略ストーリーの4つの区切りの関係性は資料3に示している。また、第3章の「方針」に合わせた「取り組み内容」が記載された部分にはその内容を4つのうち、どの空間領域で行うのかを示している。

北、中、南の圏域でどのように取り組んでいくのかについては、第4章の「圏域別都市づくりの方針」で、第3章の方針を抽出、振り分けている。

部会長 従来型の圏域別に評価・検証することが記載されていない。今回は加えて戦略ストーリーの評価を行うため特出ししている、ということか。

事務局 前回部会では3年ごとに総合計画の評価と合わせて評価していくとしか記載していなかった。戦略ストーリーは重点的に取り組んでいくのでしっかりと評価をしていくため記載した。

部会長 4つの戦略ストーリーの区分のゾーニングされた図面を出すべきではないか。戦略ストーリーごとに指標があるということは、地形地物で区切られるということであり、ゾーニング図がないと、評価に用いる統計データを出せないのではないか。概念的にはP.2-4都市構造図またはP.2-6地域類型図で示すことができると思う。

事務局 都市拠点、地域拠点の範囲は明確ではないので、考える必要がある。計画的市街地、田園集落地はP.2-6地域類型図に、産業・学術研究拠点はP.2-4都市構造図にその範囲を示している。

部会長 やはり明確になっていない都市拠点、地域拠点の部分で意見が分かれているので、ここで戦略ストーリーを当てはめるなら、どこのことかはっきり示すべきである。

- 委員 P. 2-6 地域類型図に書かれている複合市街地は、戦略ストーリーは無いということか。かなり主要な部分を占めているような気がするが。
- 事務局 重点的に取り組んでいくものとして、今回の 4 つの空間領域を定めている。複合市街地については戦略的、重点的ではなく、第 3 章第 4 章に記述する取り組みを進めていく。
- 委員 戦略的にやる所とそうでない所があり、戦略的にやらない所は、圏域の方針に従ってやるということか。全く方針がないというわけではないと思うがどうか。
- 事務局 第 3 章のさまざまな方針に、それぞれ該当するところがある。市全域を第 3 章でカバーしている。
- 委員 第 3 章から第 4 章の評価を前提として、戦略ストーリーに基づき評価を試みているというのは、すごく先進的な取り組みだと思う。しかし、アウトカムは統計資料と併せて、ゾーニングも示す必要がある。
- 部会長 複合市街地には、戦略ストーリーがないのであれば、戦略ストーリーという言葉が良くないのではないか。生駒の都市計画の課題において、土地利用のあり方としては、複合市街地をどうしていくかということが非常に重要だと思う。第一種住居地域でばらばらにやってきたことが、課題のひとつではあると思うので、重点でないと言われると引っ掛かる。
- 今回の資料では、評価指標を論じる以前の意見が出てしまっているので、次回までにもう一度検討していただきたい。今回誤解を生んだのは、従来の評価があって、その上にさらにこの戦略ストーリーの評価があるというのは、都市マスの評価体系、あるいは見直しの PDCA のサイクルを、より市民目線で分かりやすくするという趣旨であることは理解できた。しかし、逆に分かりにくくなってしまっているので、従来の圏域や類型別の評価もあり、重点的に市民目線で評価するのが戦略ストーリーの部分である。よって欠落する部分はないということではないか。一部分のみではなく全体を見せていただき議論したい。
- 例えば、P. 5-10 田園集落地の「農泊・農家レストラン・カフェ等への転用件数」などはアイデアとしては分かるが、2 件あることが良いことなのか、悪いことなのか、そして活動が進んでいるのかを、どのように評価するのか。ロジックモデルとしては、こうなると思うが。
- 委員 今回載せるのかどうかは事務局で判断していただきたいが、市民目線の暮らし方、住まい方は行政だけで評価することではないと思う。地域の方と取組を進めていくなかで、一緒に地域の人と評価指標を作っていくと

いう発想もあると思うので考え方を加えてはどうか。

部会長 アウトカムの市民満足度調査を用いた評価であれば分かるが、アウト
プットについては、かなり気になる項目がいくつかある。また、市民の人
と一緒に考えていくということも方法としては考えられる。

 考え方は何となく共有出来ていると思うが、細かいところについては
気になるところがたくさんある。再度検討をお願いします。

委 員 計画の推進方針であるが、前回から記載する順番は変えていただいた
が、関係性が分かりにくく、都市づくりという言葉が(1)、(2)にあり、
(3)で地域まちづくりという流れになっている。この関係性については、
(1)の前にあらかじめ説明を入れた方が良いのではないかと思う。

 都市と地域という違いで語っている部分と、加えて主体となるまちづ
くりが(3)に入ってきているため、主体の話をしなければいけないとい
う流れを考えると次のように構成を組み替えてはどうか。(2)を(1)に
戻し、冒頭にある、「都市全体と個別地域の両面からのアプローチ」を章
の説明箇所に繰り上げ、その後に基本的な考え方と主体の説明をしたう
えで、(3)の地域まちづくりを説明する。都市づくりと地域まちづくりの
関係性をもう一度見直し、説明も必要に応じて追加したほうが良いと思
った。

部会長 都市づくりと地域まちづくりの関係性をどこかで示していただきたい。

委 員 P.5-8、5-9のアウトプットについて、様々な件数として数字で出てく
ると思うがその評価基準を今回全部作るのか。例えば何件であればよく
できた、または駄目だったなど基準値は出てくるのか。

部会長 いったん事務局に検討してもらってはどうか。おそらく、思いとしては
もちろん評価指標ということであるので、例えば10件であれば、目標を
達成した、または順調に進んでるなどの評価をしたいという思いを持っ
ているが、まだこの段階で回答も難しいかと思われる。

委 員 承知した。数値だけ出ていてもわからないと思う。

部会長 いったん事務局のほうに考えていただくこととする。

【序章・1章・2章】これからの生駒の都市づくり・都市づくりの目標と戦略

- ・事務局から説明
- ・意見等

委 員 P.序-6「生駒における都市づくりの特徴」に、「魅力的な資源が今も市内
に数多くあり」、と書かれているが、感覚的には「あり」というより、「残

されて」の方が妥当であると思う。対外的にも訴えかけとしては「残されている」の方が良いと感じる。

また、P.序-8「今後は高齢者世帯の老化などを背景に、これまでもっとも多くはなかった単独世帯の増加が認められます」は分かりにくいので表現を工夫したほうが良いのではないか。

また、同じページの「生駒市における近年の動向：市民ニーズの変化」において、「女性の就業率の高まりなどを背景にした様々な働き方へのニーズの高まり」と書かれてるが、これは生駒市に対する期待ではない。働き方からくる生駒市に対する、住んでいるところに対する希望やニーズといった表現に改めてはどうか。

部会長 事務局で確認、表現を検討していただきたい。

委員 P.1-7「これからの生駒の都市活力を創造する都市」の「中心市街地においては、後継者不足や担い手不足によって、空き店舗が増加してる」という表現が少し違うのではないか。私もびっくり通りの商店街の人たち何人かに意見を聞いてみたが結局将来性がないからという答えだった。だから、息子が継がない、店を持ちたくないという話だった。単純な後継者不足や担い手不足ではなく、生駒駅周辺の求心力が弱いことが、この地域で商売を続けていこうという気力が生まれてこないことが根底にあると思う。びっくり通りでも1階の店は閉めているが、上には住んでいる。貸してくれと言っても貸してくれない。この商店街に対する将来性の問題がある。だからこそ、まちづくりにおいては高齢者だけを駅前に集めて欲しくない。本当にこの生駒の駅前で商売したいと思えるようなまちづくりにするということが大事である。だから、後継者不足や担い手不足ということについて、もう少し表現を考えていただきたい。

部会長 P.1-7「これからの生駒の都市活力を創造する都市」には後継者不足や担い手不足を示すデータが載ってるわけではないので理由は示さなくてよいのではないか。空き店舗が増加してにぎわいの低下が進んでいるということを示したら良いのではないか。掲載しているデータとの整合性を図りつつ表現を整理していただきたい。

委員 P.1-1で、生活構造、社会構造、都市構造という言葉が出てくるが、あまり耳慣れない言葉である。総合計画で使われている表現であると考えるが、生活構造と言われてもイメージできない。

事務局 総合計画からの抜粋であるが、生活構造とはどういうことかが分かるように説明を補足したい。

委員 資料 3 で各章の関係性を説明されたが、このようなものは本編には載らないのか。

事務局 載せていきたいと考えている。

委員 載せるのは良いと思うが、先ほど意見のあった複合市街地が戦略ストーリーに入っていないことが明確になってしまうという問題がある。戦略を踏まえて分野別方針等が展開されることになっているので、その辺りは上手に表現したほうが良いと思う。

また、言葉の問題であるが、「土地利用の増進」について、これは何を増進しようとしているのかが具体的に分からない。低未利用地を無くすのか、土地利用の混合性を高めるのか、何を増進しようとしているのか教えていただきたい。

事務局 高度有効利用的なこともそのなかに含まれると考えるが、ご指摘の通り具体的にイメージしにくいかもしれない。

委員 短い言葉にしたいのも分かるが、土地利用の増進だけ言われると、イメージしづらい。これは5つの視点に入っているため重要だと思い気になった。

委員 P.1-8「一方、自治会の担い手不足や地域内でのつながり・世代間の希薄化」の後「そのため」と続いていくが、自治会の担い手不足が何によって起きているかということはこの表現で良いかもしれないが、それに対する方法として「公共空間や公共施設のストックの活用や新たな機能導入」は妥当なのかどうか疑問である。

また、P.1-10「歴史文化、田園・自然環境を活用・継承する都市」の「一方、資源の保全・活用の担い手不足等により」は「資源の保全・活用の担い手不足」ではなく、山林の荒廃や耕作放棄地の増加は農家の担い手の減少が原因ではないか。農家の担い手が不足しているということをはっきり示し、その上で農業をやってみようという人を求めていくという流れの方が分かりやすいのではないかと思う。

部会長 記載してあることと統計データのミスマッチについて先ほどからみなさん指摘されている。ここでも、農家の数のグラフがあるのに、伝統文化の衰退や山林の荒廃などの記載がある。それであれば耕作放棄地のデータを載せた方が良いのではないか。少し書き過ぎている所はあると思うので再度検討いただきたい。

「増進」という言葉は、区画整理で使われる用語であり、今まで低未利用だった所を都市的な事業に変えるようなことを指している。今回はそ

のようなイメージとは少し異なると思われる。しっかり説明するか、適切な言葉に変えるかなど再度見直していただきたい。

委員 5つの視点が重要であると思うが、P.2-2以降は5つの視点という表現がなくなっている。P.2-1で示されている各項目を1つずつ解説してということだと思うが、この関係性が分かりにくいためタイトルを工夫するなど検討いただきたい。例えば番号振っておくなどして、次ページ以降がその説明だということが分かるような書き方をしていただきたい。

部会長 P.2-10「都市づくりの戦略」で「空間資源の再編」と書かれているが、資源を生かす、活用するなど表現することはあるが再編するとはどのようなことなのか。やはり土地利用の見直しということはどうしてもイメージしてしまうが、そのような趣旨でよいか。また、「空間資源を活用した活動を育む場の創出」と書かれると、公民館等に移転させるといったことを想像してしまう。「空間資源」の定義や「空間資源の再編」はどのようなものか整理する必要があるのではないか。

事務局 再整理する。

部会長 耳慣れないから駄目というわけではない。新しい概念を出すことは良いと思うので、きちんと説明していただきたい。

部会長 「空間資源の再編」は公共施設の再配置のことを指しているように受け取れる。再編という言葉は、今まで10個あったものを8個にするといったイメージがある。どうしてもそのようなニュアンスが出てしまうので、生駒市の取組みで同じ言葉を使っているのであれば、解説を加えた方が良くもしいない。

事務局 この再編という言葉は何か置き換えることができるかどうか検討する。

部会長 「再編」はいったんゼロに戻し作り直すという印象を感じる。良いものに磨きをかけるといったニュアンスが強いと思うので表現を再考いただきたい。

委員 P.5-3にも「空間再編の取組」という言葉が出てくるので併せて検討いただきたい。

部会長 新たな概念を提示するのは良いと思うがまだ言葉が躍っている。新しい概念が複数出てくると、理解するのが難しいと思う。どこに新しい概念を使うべきか決めていただいて、あとは平易な言葉で説明したほうが良い。

【3章】都市づくりの方針

・事務局から説明

・意見等

委員 P.3-7 が新しく追加された「住宅」になるかと思うが、この方針のタイトルに「両立する住宅政策」とある。記載内容とともに、他の項目との表現を合わせて「住宅づくり、住環境の形成」などとしてはどうか。同じように文章においても「市内で住み続けることができる住宅・住環境の形成」などとしてはどうか。続いて「良好な住環境の維持・形成」とあるが、タイトルに「住宅」と掲げるのであれば、「住宅・住環境」としたほうが表現上良いのではないか。

また、このページで一番重要なのはおそらく「分野連携」においてリンクする施策を書き出しているというところだと思う。しかし最初の「良好な住環境の維持・形成」については、住宅なのか、都市計画なのかという、非常に中間的なものになってしまっている。これは庁内での協議がされた結果このような振り分けになっているということで良いか。

事務局 他分野との住み分けについてまだ十分に整理できていない。

委員 その辺りの仕分け・整理については庁内の連携をお願いしたい。

委員 P.3-5 から、SDGs のアイコンが入れられているが、ターゲット 11 は都市づくりの話であり、防災が明確に書かれていたかと思うので災害に強い都市に 11 が無いのは違和感がある。全体的に再度確認をしていただきたい。

委員 防災はかなり重要だと思う。市内現地踏査をした際、地形や道路の状況を確認したが「安全な避難路の確保」について、地形、道路、コミュニティの状況を踏まえて、どこに避難すべきか等を検討した方が良いのではないかと感じた。「地域コミュニティの強化」については、それを単に強化するのではなく、例えば接道条件、集団・コミュニティを生かした防災、避難所との関係、従来型ではないコミュニティを考えた防災といったところを出せると良いと思った。

委員 P.3-16「道路の整備方針図」で、近鉄奈良線だけが市外に出ており、地下鉄の延長線上は表示されていない。また、道路がどこへ延びてどう抜けていくか、どこの高速道路につながっているのか等を示しておくとうい。生駒市民以外の人にも分かりやすいものになると思う。

委員 P.3-6「災害に強い都市」の、「安全な避難路の確保」で、「緊急輸送路上の橋梁について、優先的に耐震化を実施」と記載されているが、狭い生活

道路についても触れていただけないか。橋梁だけになっているが、それ以外にも道路を少しずつ計画的に広げていくなど書いていただけると有難い。

それに関連して、国道 308 号は完全に狭い道となっている。これはなかなか難しいと思うが、極端に言えば災害があった場合、大阪からこの道を通ってこれるように少しでも道路の拡幅を進めていくことが必要なのではないかと思う。

事務局 3-14 方針 5-②において「168 号線の整備促進」ということを書いている。これは防災には入っておらず、交通に入れている。また、道路整備推進についてもこの交通で触れているが、ご意見にあったように、道路の拡幅等については防災上の安全にも関わってくるため、そちらにも掲載するような形で検討する。

部会長 例えば、道路の改善については、都市計画の道路の話もあるが、道路部局での生活道路の拡幅や側溝の上に板を張るなどといったことを分野連携として記載するという方法も考えられる。

【4 章】圏域別都市づくりの方針

・事務局から説明

・意見等

委員 現在空欄になってる箇所は最終的には全て埋まるという理解で良いか。
事務局 全て記入する。

部会長 「まちなか」という言葉は定義する必要がある。また、生活圏域で設定されていることもあり、バス路線は記載したほうが良い。煩雑になるかどうか確認して、判断していただきたい。

自治会委員の皆さんには、お手数ですが、細かく見ていただき、不足等があればご指摘願いたい。

事務局 お気付きの点があれば事務局までご連絡いただきたい。

委員 戦略ストーリーとの対応関係が分かると、全体が流れていくと思った。

部会長 私自身の理解では、戦略ストーリーは象徴的な要素で、あらゆる市街地にそういう概念が含まれるという捉え方をしていた。例えばにぎわい拠点にはニュータウン市街地の中心部にもあるという捉え方をしていたが、今回の話ではどうも地形地物で区切れるようなものだというのであった。そうすると、エリアの抜け落ちがたくさんある。そのなかで、特出しのような表現にすると、特出しされない所が目立ってくる。分かりやすさ

もある反面、切り捨てるところもあるという表現になってしまうため、再度検討が必要だと感じる。

戦略ストーリーを概念的なものとしていくのであれば、おそらくアウトカムやアウトプットという評価は出来ない。一方、地形地物で区切るといふことであれば、分かりやすくなるが、浮かび上がってこないエリアの扱いをどうするかについて対処する必要があるが出てくる。その辺りを再度検討いただきたい。

次回 2 月 10 日に素案を固めることとなるが、事前に委員の方々のご意見を伺い、調整・修正をお願いする。

(2) 閉会

事務局

次回、第 10 回都市計画マスタープラン策定検討部会を令和 3 年 2 月 10 日水曜日午後の開催とする。さらに、令和 3 年 2 月 26 日開催の都市計画審議会においてパブコメ素案の報告を行い、さらに議会での報告を経て、3 月末からパブリックコメントを実施したい。

以上